



学校創立141周年
百年松

阿木名小中学校便り 令和2年12月18日発行

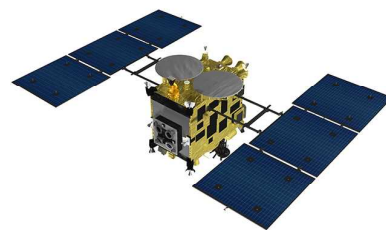
◇校訓「かしこく やさしく たくましく」
あきらめず 明るく元氣なあいさつができる子ども
あきらめず ぎりぎりまであきらめず努力する子ども
あきらめず 仲よく笑顔いっぱいの子ども
～花いっぱい、元氣いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子～



阿木名小中学校

科学のロマン

校長 川原 啓司



先日、毎年恒例の「今年の漢字」が発表されました。第1位は「密」。続く2位が「禍」、3位が「病」といずれも新型コロナウイルス関連の文字が選ばれました。新型コロナウイルスとなった2020年でしたが、世界ではワクチン接種の始まった国も出てきました。人類はこれまでも科学の力で多くの疫病を克服してきました。今回も必ず打ち勝てるはずです。それまで私たちは新しい生活様式にもとづいた感染防止に努めながら、その日を待ちたいものです。

科学の素晴らしさといえば、明るいニュースが飛び込んできました。小型惑星探査機「はやぶさ2」のカプセルが地球に帰還した話題です。そしてカプセルの中には小惑星「リュウグウ」のものとみられる黒い砂粒が多数確認されたということです。「はやぶさ2」は6年前に種子島のJAXA宇宙センターから打ち上げられました。最大の目的は地球から約3億キロ離れた、直径900メートルの「リュウグウ」から地表の砂や石を採取して持ち帰ることです。3億キロはなれた場所の半径3mの領域にタッチダウンさせる技術というのは「日本からブラジルにある6cmの的を狙うのと同じ」と例えられるそうです。それを2回も成功させたのですからとんでもない技術力です。さらにそのカプセルを無事に地球上に落下させるのですから、驚くしかありません。

この偉業の裏には「初代はやぶさ」の運用があるそうです。初代は小惑星「イトカワ」を探査し、表面の物質を採取して2010年に地球に帰還しました。途中で何回もトラブルに見舞われましたが、当時の科学の英知を結集してその困難を乗り越えました。その時の経験が今回、十分に生かされたということです。気の遠くなるような試行錯誤を繰り返しながら科学も進歩していくのですね。なお、「はやぶさ2」はカプセル投下後、そのまま次の惑星をめざして出発しました。目的地到着は11年後の2031年ということです。なんだかロマンを感じますね。

さて、このような科学の素晴らしさを少しでも子どもたちに体感して欲しいということで、先日16日、小学4年生を対象に近畿大学の本村教授によるオンライン授業「科学実験教室」が本校の理科室で行われました。同じ材料で全く異なる機能を持つものを作る実験というテーマで子どもたちは色々な薬品を混ぜ合わせてスライムやスーパーボール、人エイクラを作りました。これらの実験をきっかけに知的好奇心を刺激された小さな科学者たちが誕生してくれることを期待したいと思います。